

## 平成29年度 第3回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成30年3月26日（月）13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：16名 オブザーバー：13名 事務局：4名 計33名

- 報 告
- (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業について
    - ① 県・市連携文化施設整備事業および旧県立美術館の活用
    - ② 千秋公園再整備基本計画の改定に関する動向
    - ③ 秋田市中通CCRC拠点整備事業の進捗
    - ④ ノーザンステーションゲート秋田1周年記念事業
  - (2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業について
    - ① 芸術文化ゾーン活用研究会の進捗
    - ② 秋田市民市場活性化事業（再形成事業）の実施結果
    - ③ 秋田街屋プロジェクトの実施結果
  - (3) その他
    - ① 東北経済産業局からの施策紹介
    - ② 広小路におけるフラッグ掲示
- 協 議
- (1) 基本計画の変更に関する意見書の提出について
  - (2) 平成30年度事業計画（案）・収支予算（案）について
  - (3) その他

○発言内容

【三浦会長の開会挨拶】

本日は年度末のお忙しいなか、第3回秋田市中心市街地活性化協議会にご出席いただきありがとうございます。

さて、第2期中活計画も早や1年を経過しようとしております。

この間、中核事業である県・市連携新文化施設については基本設計が、また、旧県立美術館については秋田市において利活用案がまとめられました。

さらに、秋田市のシンボルでもある千秋公園については、20年ぶりに再整備基本計画がまとめられており、今後の整備が期待されるところです。

民間においては、北都銀行を中心とする秋田市中通 CCRC 拠点整備事業について実施設計が進められており、30年度の着工を目指しているほか、JR 東日本秋田支社が取り組んでいる「ノーザンステーションゲート秋田」の取組みも1周年を迎え、様々なイベントが展開中です。

このあと、それぞれの事業の進捗について、関係者の皆様からご報告いただき、情報共有を図ってまいりたいと存じます。

本日は、平成30年度の事業・予算等についてご審議賜りたいと存じますので、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。開会のご挨拶といたします。本日は、よろしくお願いいたします。

## 【報 告】

### (1)秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗について

①県・市連携文化施設整備事業および旧県立美術館の活用について、秋田市企画財政部企画調整課齋藤一洋課長が報告した。

県・市連携文化施設整備事業について、1月下旬に基本設計が終了し、現在は実施設計に着手しているところ。ご覧いただいている資料は2月の市議会定例会と県議会で説明した概要版である。佐藤総合計画・小畑設計共同企業体から建築計画の基本方針として、4つのコンセプトをご提案いただいている。1つ目は「環境との調和」として、水平ラインを基調とした層状の低層部で建物周囲を取り囲み、高さを抑え圧迫感を軽減するというもの。2つ目は「敷地利用と動線」であるが、芸術文化の活動空間ということで、中土橋通りと並行する建物内の1階を「秋田小路」として文化活動ができる空間とし、敷地の東西をつなぐ佐竹小路側と並行する建物内の通路を「芸術の路」とするというものである。建物の中で交差点を作り、文化の軸として生かしたいという提案である。3つ目は「利用者等への配慮」であるが、子供からお年寄りなど様々な利用者に配慮したユニバーサルデザインを施設に取り入れるというもの。特に建物の入口については、中土橋の道路と高さを合わせるなど、バリアフリーにも配慮いただいている。4つ目は「芸術文化と賑わい」ということで、高機能型ホールと舞台芸術型ホールの整備に加え、公園のように利用できるホワイエ「パークホワイエ」を3階に整備する計画である。ホワイエはホール利用時以外での日常的な利用を想定し、気軽にくつろげる県民・市民のスペースとして計画している。四方の眺望を意識しており、千秋公園側、旧県立美術館側、市街地側、山王の市街地側を眺められる明るい空間とする提案である。

建築の概要であるが、建築面積は21,740㎡と想定通りとなっている。駐車場は250台程度の収容となる。

秋田小路と芸術の路を含むエントランスロビーは吹き抜けの開放的な空間となっている。多目的スペース、情報発信センター、ブックカフェなどの設置提案を受けており、市民が滞留できる空間として現在検討を進めている。また、練習室、研修室、創作室などを集中的に配置している。

3階のホワイエではビュッフェカフェや眺望テラスの設置を検討している。高機能型ホールは2,000席、舞台芸術型ホールは800席となっている。ホール壁面や1階のエントランスロビーには県産材の木材等を使用する方向で実施設計を詰めており、秋田駅前から連続した木質化空間として統一感を持たせたいと考えている。今後は9月議会までに総事業費を再度精査し、県と市で予算措置を進めていく。平成33年度後半の開館を目指している。

関連性もあることから、続けて旧県立美術館の利活用についてご説明させていただく。

県が所有する旧県立美術館を市が活用できないか検討してきた。県・市連携文化施設と向き合う立地を活かし、芸術文化ゾーンの核施設として利用したいと考えている。3月議会において改修設計の予算を認めていただいている。

名称は仮称であるが「秋田市文化創造交流館」とし、設置の目的は「芸術文化によるまちおこし」のさらなる推進を図り、市民の文化力と文化の持つ創造性を生かして、新たなまちの魅力とにぎわいを創出し、市民が愛着と誇りを持つまちを目指すための拠点施設とすることである。

施設は、周辺の芸術文化施設との差別化を図り、展示などの用途が固定された諸室とするのではなく、コーディネーターの配置や市民企画会議（市民WS）と連携した運営により、新たな企画や活動を実施する施設とし、長期間の創作・公開や記録保存・発信など、他の施設では対応していない利用形態とする。また、千秋公園と連携した歴史案内や市街地への回遊など、芸術文化ゾーンにおける連携事業を展開するのが特徴である。

利活用調査を踏まえ、文化をキーワードとした将来のまちづくりを視野に、「まち全体の文化力を涵養（かんよう）」、「未来の地域社会に向けた感性を創造」、「新たなまちの魅力とにぎわいを創出」、「市民のまちへの愛着と誇りを醸成」の4つの基本目標が循環するイメージで設定した。

活用コンセプトは、建物の立地、まちの物語、人々の記憶をキーワードにこれから整理していく。

市民WSを通じて、旧県立美術館の活用に求められる役割として、①人をつなぐ、②まちに開く、③活動が見えるといったキーワードで整理している。役割に必要な新たな機能では、①創造の拠点、②交流により共感を広げまちに関わる人（関係人口）を増やそうとする交流事業の展開、③市民の活動の支援を実施していきたい。

なお、芸術文化や歴史文化をテーマとする市民の活動や主催事業での多様な活用に柔軟に対応できる施設とするため、利活用分野ではなく、利活用の性質に着目して整理している。他都市の事例や秋田市の一連の事業などを踏まえて市民WSで内容を詰めていきたい。

運営については、コーディネーターを配置し、最終的には芸術文化ゾーン全体でのエリアマネジメントを担うことも検討している。市民WSや秋田公立美術大学との連携による人材の育成・活用も考えていきたい。

施設改修は、多様な活動を結びつけ、人のネットワークをつくるため、文化、芸術、歴史等の分野ごとに諸室を固定するのではなく、様々な利用アイデアに柔軟に対応できるよう、①活動内容に応じて選択できる3つのスタジオ、②より小区画でオープンな活動ブース、③誰でも自由に利用できる交流ロビー、テラス、公開空間等により構成する。

平成30年度の改修設計の中で詳細を詰めていくが、2階には天井の高い吹き抜け空間を活用したスタジオAとワークショップなどで使えるスタジオB、1階には暗室として映画上映などに使えるスタジオCや交流ロビーなどの設置を考えている。

当初は年間 10 万人の利用者数を見込んでいるが、将来的には交流事業の拡大と芸術文化ゾーンとの相乗効果により、中心市街地活性化基本計画に掲げる年間 13 万 5 千人を目指す。

施設改修経費は、利活用用途に合わせた改修や県・市連携文化施設との一体性を意識した外構（前庭）の公開空間の整備などを含め、概算で約 10 億円を見込んでいる。

今後のスケジュールは、平成 30 年度に改修工事設計と並行して運営管理計画を市民 WS で詰めていく。平成 31 年度に改修工事に着手し、平成 32 年度内の開館を予定している。

次に、②千秋公園再整備基本計画の改定に関する動向を報告する予定であったが、追加資料が発生したため配布後に説明することとし、先に③秋田市中通 CCRC 拠点整備事業について、(株)北都銀行赤坂和仁地方創生副部長が説明した。

まずは、(株)北都銀行が当事業により、地方創生に資する平成 24 年度の金融機関等の「特徴的な取組事例」に認定され、2 月 14 日（水）に内閣府特命担当大臣（地方創生担当）より表彰を受けたのでこの場を借りてご報告させていただく。

これについては、秋田県の課題である人口減少や少子高齢化の解決策の一助として、CCRC 拠点整備による移住定住・多世代交流、コンパクトシティによる中心市街地の活性化、スマートウェルネスによる健康長寿・予防医療などをコンセプトに掲げ、秋田県と秋田市の振興事業として評価されたものと理解している。

CCRC の進捗であるが、分譲マンション大手の(株)大京と秋田不動産サービス(株)、ミサワホーム(株)が 2 月 9 日（金）に分譲販売に関する基本協定を締結した。今年秋頃に販売を開始予定である。

現在は実施設計に着手しており、約 90%のテナントが確定し、入居希望者からの問い合わせも多数いただいている。建設業者については、4 月以降の補助金申請の後に一般競争入札で選定したいと考えている。6 月頃より、秋田信用金庫秋田駅前支店と当行の保険プラザの解体作業を進め、建築確認を申請・承認後に本体工事着手の予定となっている。

詳細のスケジュールについては、補助金申請・認可後に改めて公表させていただく。

中通地区まちづくり協議会については、秋田県、秋田市、秋田商工会議所様にオブザーバー参加いただき、スマートウェルネス賑わい創造の分科会を設置し、検討事案に応じて専門家からご意見をいただいている。様々な事例や視察を通じて実効性の高い事業としていきたいと考えており、皆様には引き続きご支援・ご協力をお願いしたい。

最後に、JR 秋田支社様において、食事付き学生寮マンションや ABS 本社の移転などにより、秋田駅前が大きく変貌を向かえる 2020 年のオリンピックイヤーにおいて、当事業についても 10 月を目標に事業計画を進めている。今後も進捗についてはご報告させていただく。

次に②秋田市建設部公園課保坂源栄課長が千秋公園再整備について報告した。

市民等からの意見募集（パブリックコメント）の結果をご説明させていただく。秋田市内に住んでいる方、秋田市内で事業を営んでいる方を対象に、平成 30 年 1 月 5 日（金）から 31 日（水）まで 26 日間募集した。閲覧場所は秋田市ホームページをはじめ、市役所 1 階の市民の座、

公園課、各市民サービスセンターに設けた。提出方法は郵送、FAX、電子メール、閲覧場所の提出箱への投函とし、秋田市ホームページ、広報あきた、秋田魁新報（秋田市広報版）、秋田市公式 Twitter で周知した。

32 名の方から 115 件のご意見が寄せられ、全体の約 8 割が基本方針毎の整備施策に関する意見であった。内訳としては、民間活力の導入、駐車場の拡充、堀の水質浄化などがあった。

主な意見の要旨と対応については、5つの基本方針の一部を資料としてまとめさせていただいた。例えば基本方針③駐車場の拡充では、「新たな駐車場は必要ないのではないか」「無料の駐車場を整備して欲しい」とのご意見をいただいている。市としては、市民等意向調査において駐車場の増設に関する要望が多く拡充を検討しているものの、立地特性から無料駐車場の整備は困難と考えている。また、基本方針⑤民間活力の導入については、「小さな自営業者などが出店やイベントなど参加しやすい仕組みにして欲しい」「公園内の移動販売や出店などの手続きの見える化や簡素化して欲しい」「行政と民間の勉強会や検討会を開いて欲しい」とのご意見をいただいている。この件については、市としてご意見として承り、施策展開にあたっての参考とさせていただきたいと考えている。パブリックコメントの詳細を知りたい方については、秋田市ホームページの公園課のページよりご覧いただきたい。

次に基本計画の改定についてであるが、改定委員会第 3 回会議を平成 30 年 2 月 14 日（水）に開催し、パブリックコメントの結果を踏まえた最終案を取りまとめ、2 月市議会定例会において報告した。秋田市長より 3 月 23 日（金）に決裁いただき、千秋公園再整備基本計画を改定した。5つの基本方針毎に 27 項目を設け、60 施策を定めている。例えば、基本方針①「緑や花の風景の再生による、新たな魅力の創出」では、さくらの再生を短期スケジュールで進めることとしている。基本方針②「歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用」には佐竹史料館の改修、基本方針③「多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり」には駐車場の拡充、基本方針⑤「公民連携による公園の運営マネジメントの推進」には民間活力による収益施設の導入検討（Park-PFI）などが記載されている。

公民連携・民間活力では計画の実現に向け皆様からのお力添えをお願いしたいと考えている。

次に、④ノーザンステーションゲート秋田 1 周年記念事業について、JR 秋田支社永杉博正地域活性化推進室長が報告した。

皆様から多大なお力添えをいただき、昨年 4 月の西口駐車場のグランドオープンから 1 周年を迎えることができた。また 3 月 28 日（水）には、旧 JR 秋田支社跡地にて秋田放送様の新社屋の竣工式が行われる予定である。東口についても、城東スポーツ整形クリニックの建物がほぼ完成し、5 月に開業を迎える予定である。6 月以降は JR 秋田ゲートアリーナ計画や食事付き学生向けマンション・合宿所計画の工事がスタートする予定である。

様々な事業所様と連携させていただき 1 周年記念イベントを企画・実施した。3 月 24 日からは電動アシスト式自転車のレンタル事業を開始し、1 日 1,000 円で利用できる。少しでも街中

の回遊性向上に寄与できればと考え、ご利用の際は周辺の地図を配布し、新屋ガラス工房、大森山動物園、土崎みなと歴史伝承館、如斯亭、ねぶり流し館などのご紹介も実施している。

初日は8台が貸し出され、空いた時間を有効活用したいとのことで、京都府や兵庫県からご来県いただいた方のご利用があった。

次に1周年特別企画についてご説明させていただく。プラチナタウン推進フォーラムをホテルメトロポリタン秋田で開催する。第1回はスポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授の増田明美様を講師に招き、「スポーツで地域もわたしもいきいき」と題し、平成30年4月21日(土)に実施する。第2回目は5月8日(火)、第3回目は5月19日(土)にそれぞれNPO法人女性の健康とメノポーズ協会理事長の三和良枝様より「知っておきたい 女性のための世代別健康づくり」、医療法人城東整形外科医療部長の皆川洋志様より「生涯スポーツ けがをしない丈夫な体をつくる」と題して講演いただく予定である。

資料を配布していないが、4月5日(木)に秋田公立美術大学様とJR秋田支社は包括連携協定を締結する予定である。駅を中心としたまちづくりに関する事項、沿線の活性化に関する事項、授業演習・共同研究に関する事項、次世代の地域づくりを担う人材育成に関する4事項で、相互に連携・協力する。地域の皆様とプロジェクトを推進していきたいと考えており、引き続き、ご支援・ご協力をお願いしたい。

## (2)秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗について

①芸術文化ゾーン活用研究会の進捗について事務局より報告した。

平成30年1月26日(金)に第3回芸術文化ゾーン活用研究会を開催した。当研究会は「芸術文化ゾーン」についての意識を共有し、周辺商店街・民間事業者と行政・文化施設との連携を図るために設置している。今回は協同組合秋田市民市場の会議室で開催し、32名にご参加いただいた。

旧県立美術館の利活用と(仮称)芸術祭の将来的な開催を見据えた夜学や部活プロジェクトについて、秋田市企画調整課の齋藤課長にご説明いただいた後、千秋公園再整備基本計画改定計画原案について秋田市公園課保坂課長にご説明いただいている。

各団体からは、それぞれの取組みをすべての参加団体からご発言いただくとともに、芸術文化ゾーンを発信する新たなソフトイベント(案)について意見交換を実施している。

新たなソフトイベントについては、事業計画にも記載しているが、(仮称)ギュギュっとあきた芸文ウィークとして、平成30年度の秋の2週間程度の期間のうち、各団体が参加できる期間で調整のうえ実施したい。具体的には、①秋田市主催の秋の文化イベント、②秋田県立美術館および秋田市千秋美術館の秋の展示会、③研究会構成団体が実施する事業を広く市民・県民に周知し、各施設やその取組みの魅力を発信する事業を想定しており、本日の中活協議会で予算をご承認いただいた後、4月から再度研究会を開催し、秋の実施に向け調整を図っていきたいと考えている。

研究会の回を重ねる毎に参加団体が増加している。構成団体が同じ方向を向いて、平成 30 年度は新たなトライアル事業で連携した取組みを実施していきたい。

次に②秋田市民市場活性化事業（再形成事業）の実施結果について、協同組合秋田市民市場の竹内事務局長が報告した。

秋田市民市場では現状の把握と分析を行い、地域における買い物の場としての需要を高める経営計画策定の基礎づくりを実施した。

調査結果を基に、価格、品揃え、駐車場等に対する各種満足度が明確になり、満足度の低い項目については優先順位をつけて具体的に対処するとともに、年間来場者数を設定し、それを達成するための克服すべき課題を挙げ、課題解決に取り組んでいく。

今後の予定については、(株)あきぎんリサーチ&コンサルティングと協議のうえ、経営計画書を作成し、定期的に進捗状況を確認しながら、計画を推進することとしている。

次に、③秋田街屋プロジェクトの実施結果について、まちづくりマネジメント(株)高堂代表取締役が報告した。

まちづくりマネジメント(株)の専用のホームページを(有)ネットパーソンズ様に委託し、公開に至っている。計画に流動的な部分も多く、今後も変更となる可能性がある。行程も明確化しつつあるが、出店希望者の意向も聞きながら、臨機応変に進めていきたいと考えている。

### (3)その他

①東北経済産業局からの施策紹介について、東北経済産業局商業・流通サービス産業課永田課長補佐が地域・まちなか商業活性化支援事業、地域文化資源活用空間創出事業、ものづくり・商業・サービス経営力向上支援事業およびサービス等生産性向上 IT 導入支援事業の概要を説明した。

②広小路におけるフラッグ掲示について、秋田市駅前広小路商店街振興組合佐々木理事長が報告した。

広小路商店街では街路灯上端にフラッグ掲示用のポールを設置しているが、これまで周知を実施していなかった。お堀へののぼり旗と違い、景観を損ねることなく無料で利用できるため、是非活用いただきたい。

### 【協 議】

#### (1)基本計画の変更に関する意見書の提出について

はじめに、基本計画の変更内容について、秋田市都市総務課榎岡課長が説明した。

平成 29 年 3 月 24 日付けで内閣総理大臣の認定を受けた本計画であるが、29 年度の事業実施状況等を受け、30 年以降の円滑な事業の進捗を図るため、中心市街地の活性化に関する法律

第11条第1項の規定に基づき、平成30年2月16日付けで変更の認定を申請しているところである。

まずは「日本版CCRC事業による増加（基本計画112頁）」であるが、事業者の方から事業内容の精査を行った結果、建物の階数や戸数が70戸から50戸に変更となったとの報告を受けたため、中心市街地の人口の社会増加数の積算内訳を変更し、140人の居住見込みとした。この変更に伴い、合計目標値の内訳（基本計画113頁）も変更となったが、全体の目標値は変更していない。また、具体的な計画内容（基本計画124頁）についても、地上18階建て全70戸などの計画を地上17階・地下1階あるいは50戸などに変更している。

次に「大型商業施設のリニューアル（基本計画127頁）」であるが、これはOPAのことを指している。当初は国の支援を受けて事業を行う予定であったが、今年度の事業実施にあたり国の支援が適用されなかったとのことで、国の支援の無いその他事業（基本計画138頁）に変更した。

また、協議会の開催状況（基本計画146頁）を追記するよう指示を受けたため、認定以降の本協議会の開催状況を記載している。

最後のページには、秋田市から内閣総理大臣宛に提出した変更の認定申請書の写しを付けている。内閣府から3月23日付けで変更が認定されたとの連絡をいただいている。

続いて、事務局より下記のとおり追加報告があった。

中心市街地の活性化に関する法律により、市町村が認定基本計画を変更しようとするときは、中心市街地活性化協議会の意見を聴かなければならない」と定められている。本来であれば、当協議会を開催してご意見をいただくべきであったが、2月1日（木）に意見聴取のご依頼を受け、回答期限が2月16日（金）であったことから、三浦会長に変更の主旨を説明し、了承のうえ「妥当である」旨の意見書を2月7日（水）に秋田市長に提出させていただいた。事後了承となるがご承認いただきたい。

会長が委員に意見を求め追認された。

## (2)平成30年度事業計画（案）・収支予算（案）について

事業計画（案）・収支予算（案）について、事務局が説明した。

会議の開催については、6月5日（火）に第1回協議会を開催し、年3回開催する旨を説明。

事業については、芸術文化ゾーンについての意識共有を図るとともに、関連商店街・民間事業者と行政・文化施設との連携を深め、ゾーンを活用した活力あるまちづくりの方策について研究するため、芸術文化ゾーン活用研究会を年4回程度開催する。

また、芸術文化ゾーン活用トライアル事業の実施については、新規事業であるが「（仮称）ギョギョっとあきた芸文ウィーク」として、平成30年秋の2週間程度で開催したいと考えている。

魁全面広告エリアプラスや芸術文化ゾーン内の商業・宿泊施設および構成団体へのリーフレットの配布により一般市民・県民への周知を実施したい。



先進地視察については、当協議会では、秋田市に対し秋田商工会議所を通じ、芸術文化ゾーンの形成によるまちづくりを推進するディレクターの設置を要望していた。秋田市は旧県立美術館の運営に関連し、同施設内に芸術文化ゾーン全体での連携を視野に入れたコーディネーターを配置する方針を示している。芸術文化ゾーン活用研究会でも期待する意見がある一方、求められる役割については様々な意見もあることから、先進事例のひとつである新潟市への視察を8月下旬から9月上旬で実施したいと考えている。

その他、中心市街地アドバイザー派遣事業の活用、ミュージアム連携情報発信事業、通行量調査、東北地域中活協議会等交流会への参加、循環バス・自転車の利用促進、あきたチャレンジマーケット、まちなカフェ等の利用促進について説明した。

次に収支予算案についてであるが、収入の部では、負担金として秋田市と秋田商工会議所からそれぞれ100万円ずつ負担いただいている。

支出の部については、会議費として当研究会の開催費用12万円、事業費として芸術文化ゾーン活用研究会開催費用10万円、ミュージアム連携情報発信事業（アートなまち歩き）40万円、芸術文化ゾーン活用トライアル事業108万円、先進地事例視察35万円などを計上し、予備費を含め総事業費が345万9,413円となっている。

原案どおり承認された。

#### 【出された意見・質問】

##### 佐々木清委員（広小路商店街振興組合）

ミュージアム連携情報発信事業について、内容は素晴らしいが紙媒体での発行はやめたほうがよいのではないかと。

来県し、宿泊される観光客へ配布するという意味ではよいと思うが、クルーズ船による観光客等への最新情報を提供できる別の仕組みを考えた方がよい。

また、その際は配信のシステムや情報発信方法も併せて検討いただきたい。

→（事務局）いただいたご意見を踏まえ、現在のPDFでのアップロードではなく、インターネットによる配信を検討している。

→（三浦会長）佐々木委員より貴重なご意見をいただいた。我々だけでゼロから作るのではなく、貴重な財源をどのように有効活用するかを含め検討し進めていきたい。

閉 会